

## 寄贈資料紹介

佐藤 敏江（中之島図書館）

### 1) 寄贈絵画並びに当館所蔵菅楯彦の絵画について

大阪府立中之島図書館では、本年度（H21）夏に株式会社新歌舞伎座より、菅楯彦画「道楽（一名：鼈鼓楽）」が寄贈された。寄贈を受け、21年11月28日（土）～12月4日（金）に菅楯彦並びにその弟子である生田花朝の作品を展示、最終日に芦屋市立美術博物館学芸課長明尾圭造氏による「菅楯彦と生田花朝の世界」と題した講演会を開催した。今回、公開用の調査資料をまとめ、中之島図書館所蔵の絵画の紹介とする。

「道楽」は、1958年10月に開場した新歌舞伎座へのお祝い用として制作された襖絵で、2枚の絵画から成る。今回寄贈された資料は、2枚の内の右側の作品で、左側の部分（一鼓の演奏部分）を欠いているため落款を欠くが、その来歴、画風と共に右端（雞婁鼓の演奏部分）の関防印（天高地厚 方印 4.6×2.5cm）からも菅楯彦の作品である事が知れる。天王寺雅亮会の一員であった楯彦には舞楽を描いた作品が多いが、本作もその一つ。

「道楽」は、雅楽の演奏形式の一つで、行幸・大葬・神幸の時などに使われる。楽器編成は笙・箏・篳篥・笛・一鼓・荷太鼓 荷鉦鼓で、歩きながら奏でられる。



菅楯彦作「道楽（一名：鼈鼓楽）」  
昭和33年作(平成21年度寄贈)

165.5cm×184.5cm

※制作年は菅楯彦の甥（後養子）である梶川真人氏作成の年表による。

※右の部分には満開の桜の下、五人の楽人による演奏光景が描かれている。（「画聖菅楯彦名作大成」参照）

今回の寄贈を受け、当館所蔵の菅楯彦の作品は、7点

- ・浪速文人図 昭和14年頃作

「浪速文人図」「浪速七賢人」を始め、浪速史の人物は、楯彦の愛した主題で、名称・収載人物や詠草等を違えて描いており、私の知る範囲でも、大阪府立中央図書館（大塩平八郎を欠き8人）、個人蔵2点と複数の作品がある。

- ・天王寺舞楽
- ・住吉御田 昭和 10 年代作
- ・木津川の秋雨（扇面）
- ・尻無川の沙魚釣（扇面）
- ・町人講学（扇面）

参考文献)

東京と大阪 鏑木清方・菅楯彦画 毎日新聞社 1962 刊（に 1/590）

「画聖菅楯彦名作大成」 菅楯彦顕彰会編 昭和 48 清文堂出版刊（に 1/864）

「菅楯彦・生田花朝名作展」 菅真人監修 倉吉博物館編 昭和 54 刊（911/551）

「浪速の雅人菅楯彦」 倉吉博物館編 平成 9 年編者刊（721.9/696N）

浪速の絵師菅楯彦の画業 菅楯彦画 関西大学博物館 2009 刊（721.9/782N）

大阪画談の絵画 関西大学図書館編 平成 18 年刊（721/196N）

<菅楯彦画伯への追憶 望月信成著>「日本美術工芸 302 号」 日本美術工芸社刊(雑/1345)

2) 菅楯彦関連の資料の紹介

当館では、「大阪府文藝懇話会」等を通じて菅楯彦氏と交流があった事もあり、菅氏没後旧蔵書を受け入れている。当時の職員から、受入資料の選定の節、菅楯彦の甥（後養子）である梶川真人氏のご厚意により、市場価格に関係なく選んだ等の話を聞いていた事もあり、これを機会に同氏の旧蔵書について調べてみた。

受け入れた資料は 193 点、619 冊（受入日昭和 39 年 5 月 16 日）、和装書 186 点 611 冊、洋装書 7 点 8 冊、内貴重図書に指定された資料は 5 点 28 冊、HP の「錦絵に見る大阪」で公開中の「浪花百景」はその内の一点で、100 枚揃で、題字は菅楯彦の手になる。

以下はその一覧である。菅楯彦一研究の一助になれば幸いである。

蔵書印等



菅楯彦蔵書印譜

浪花百景題字

受入印